

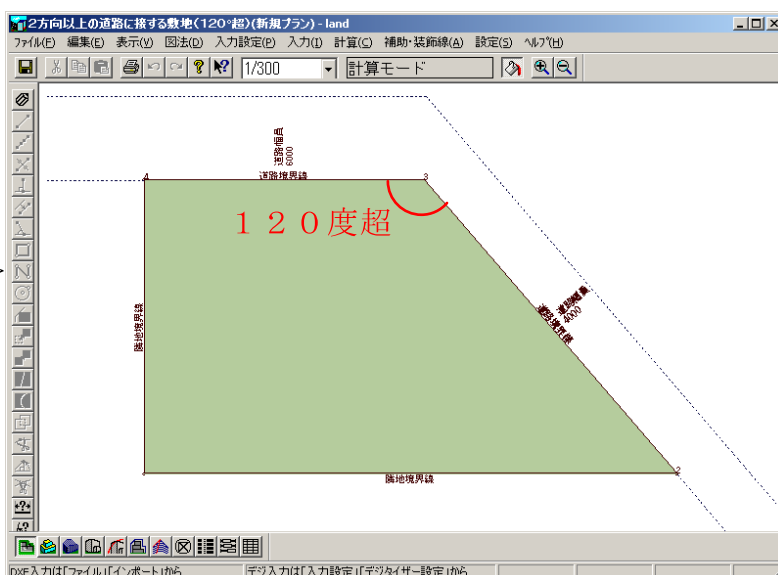
## 横浜市方式での天空率チェック方法

## 取扱 9 屈曲道路の場合（120度超）

下図のような、2方向以上の道路に接し、道路の折角が120度以内の場合、TP-PLANNERで必要な処理は、

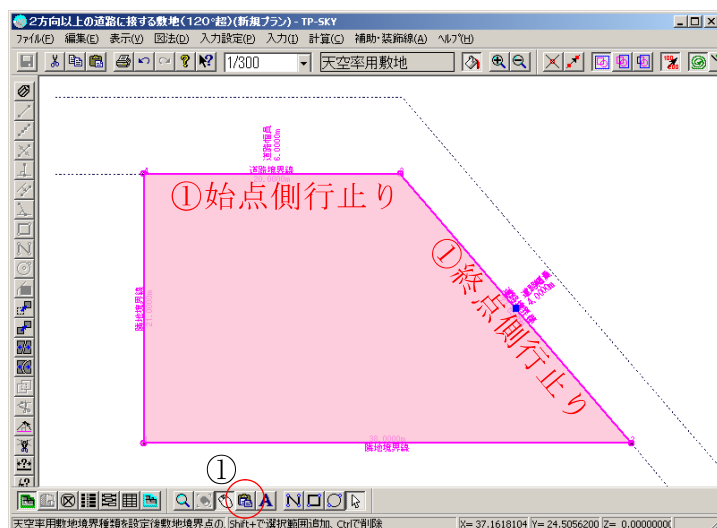
- 天空率用敷地での、『行止り道路条件』、『外壁後退同一設定』、『同一区間設定』を行なう。
- 天空率算定領域での、『自動発生方式詳細』の設定を変更
- 算定領域の形状を修正
- 算定線の位置を修正

の4点です。



では、実際にどのように入力・設定を行なうのか、を説明します。

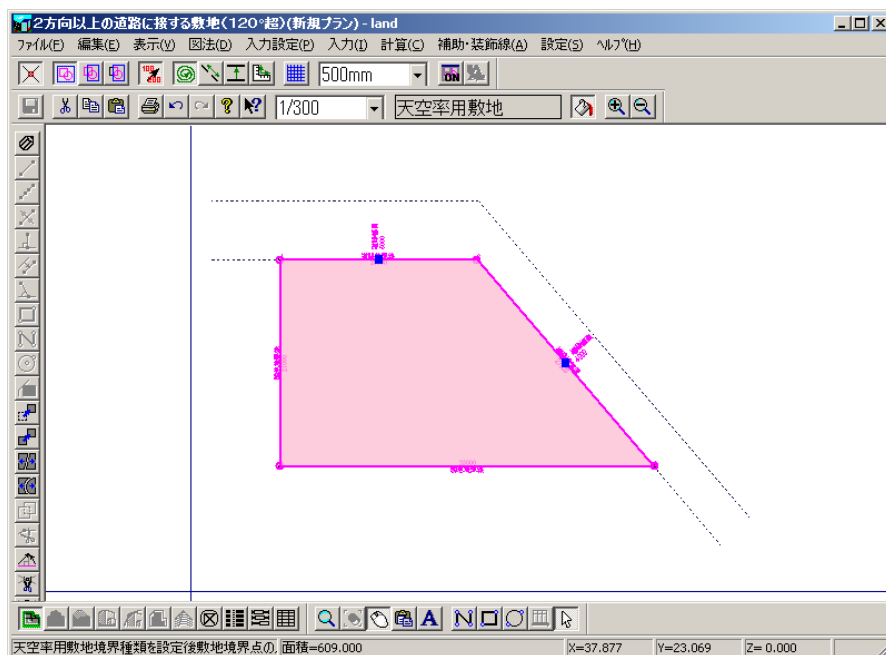
以下の処理は、すべてTP-SKYで行います。あらかじめ、真北、敷地、用途地域、建物などをTP-LANDで入力しておいてください。



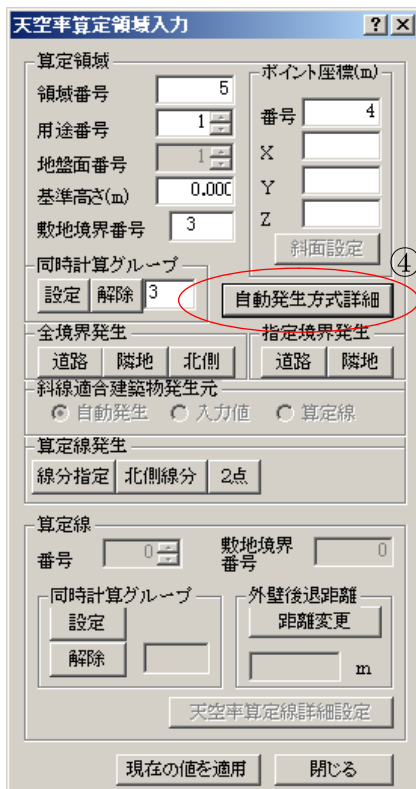
- ①『天空率用敷地』を敷地から取り込みます。『他データ変換』ボタンにより簡単に取り込むことが可能です。

- ② 連続する道路境界線がある場合には自動で『行止り道路条件』が設定されます。

- ③ また、この2つの道路は一体として取り扱う必要があるため、『外壁後退同一設定』と『同一区間設定』を行なう必要があります。

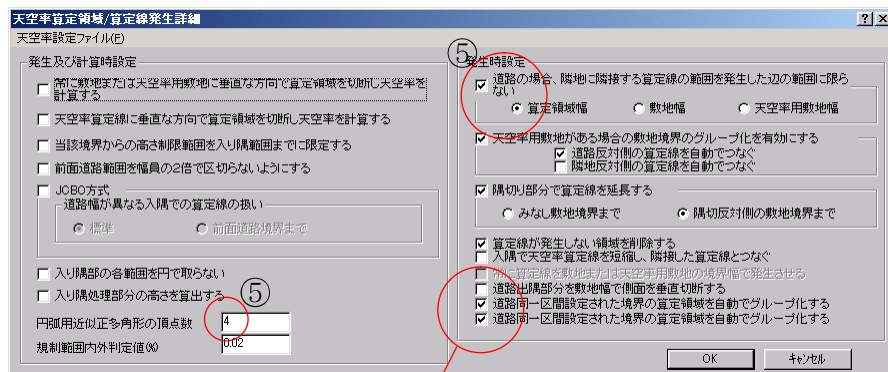


- ④ 『天空率算定領域』へ移り、『自動発生方式詳細』ボタンを押します。



- ⑤ 『円弧用近似正多角形の頂点数』を“4”にします。  
“4”とすることで、回り込みを円弧で処理しなくなります。

また、算定線の『発生時設定』を『算定領域幅』に変更します。

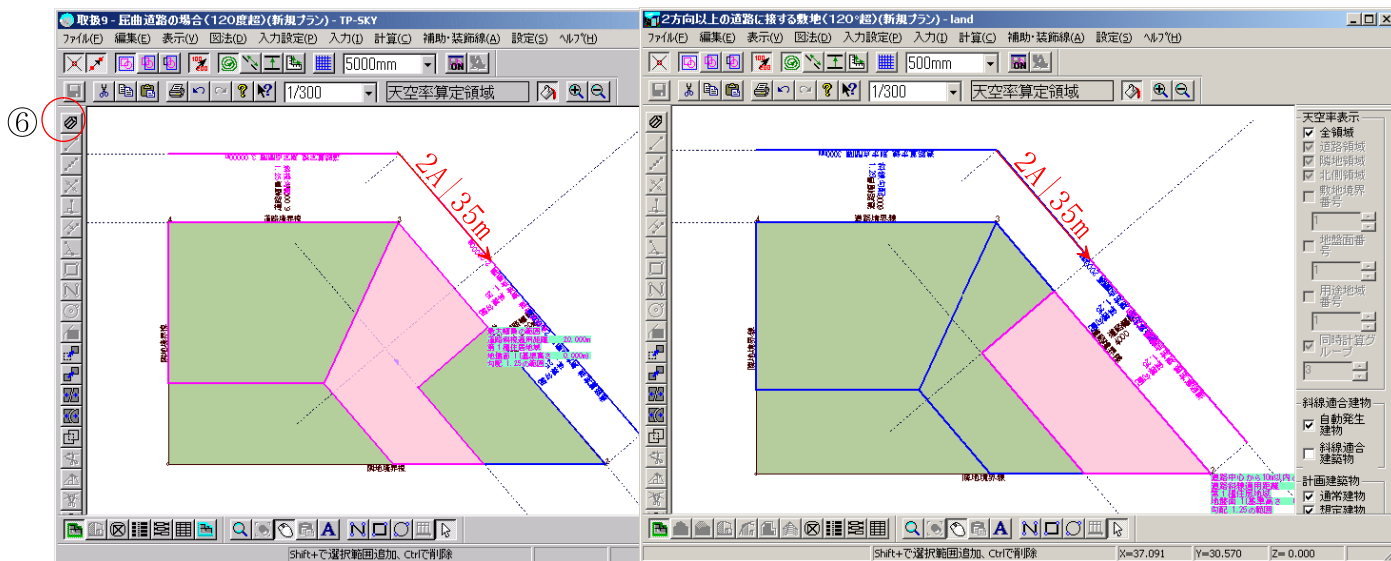


敷地境界線のグループ化を行なっている場合は、『算定領域を自動でグループ化する』を選択します。

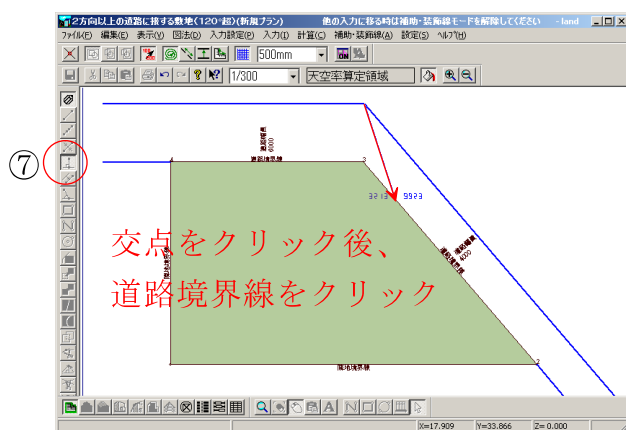
⑥ 算定領域を発生させると下図のようになります。

ここで、算定領域をマウスでドラッグして変形させます。

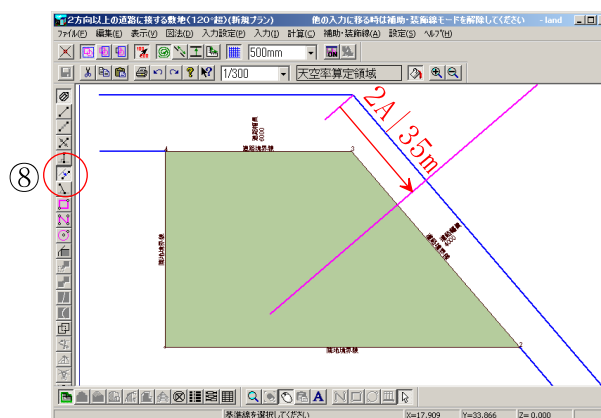
横浜市方式の場合、屈曲が120度超の場合、2Aかつ35mが道路の反対側の交点から計測するので、あらかじめ『補助・装飾線』で作図しておきましょう。



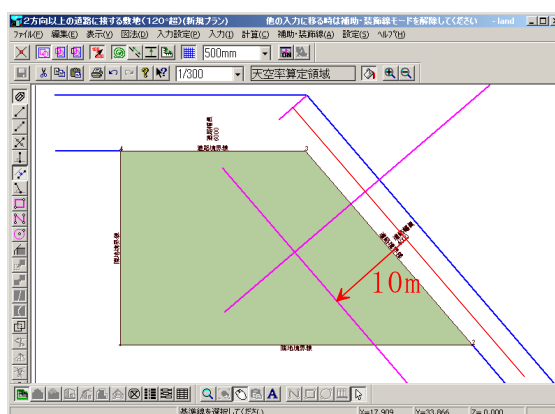
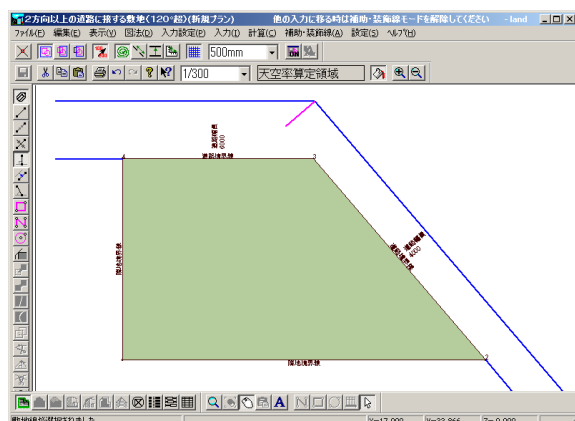
⑦ 『垂線入力』を使って、狭い道路に対して垂線を立てます。



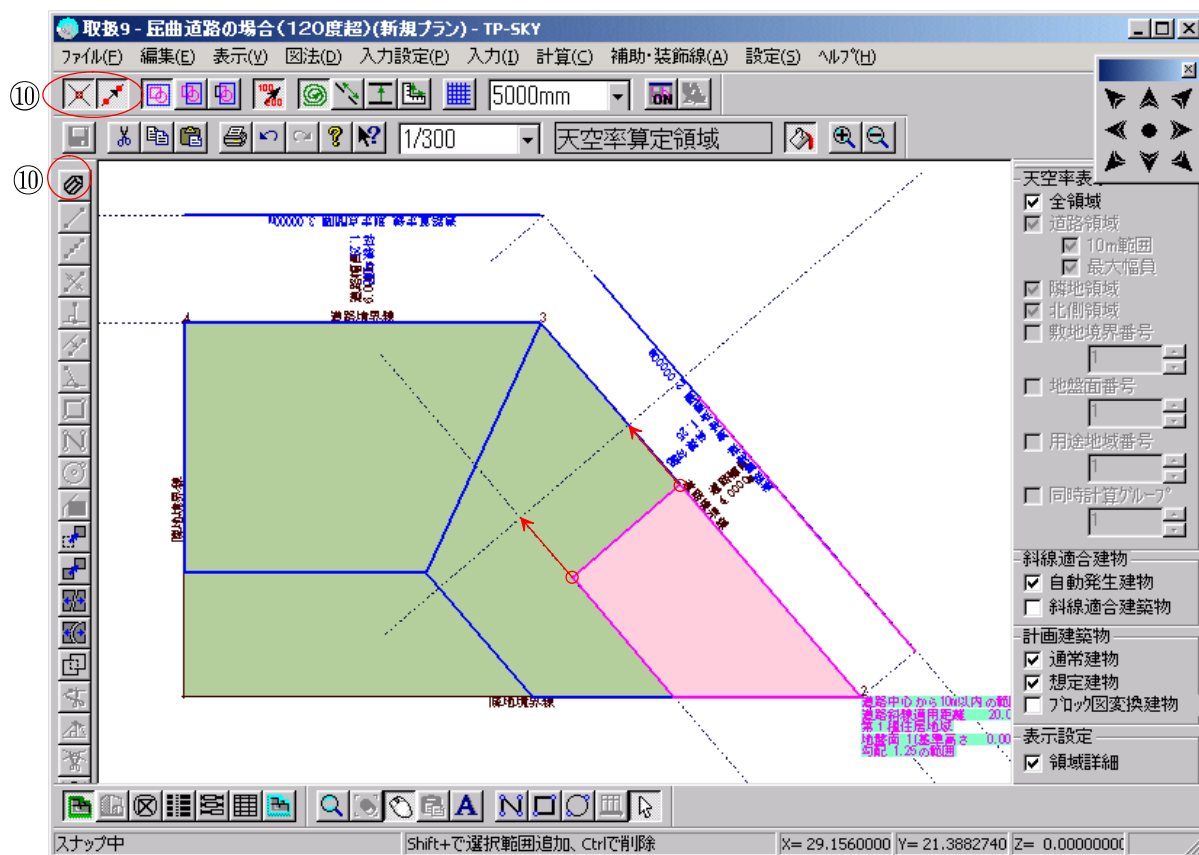
⑧ 『平行線入力』を使い、2Aかつ35m線を作図します。平行線は長めに引いておきましょう。



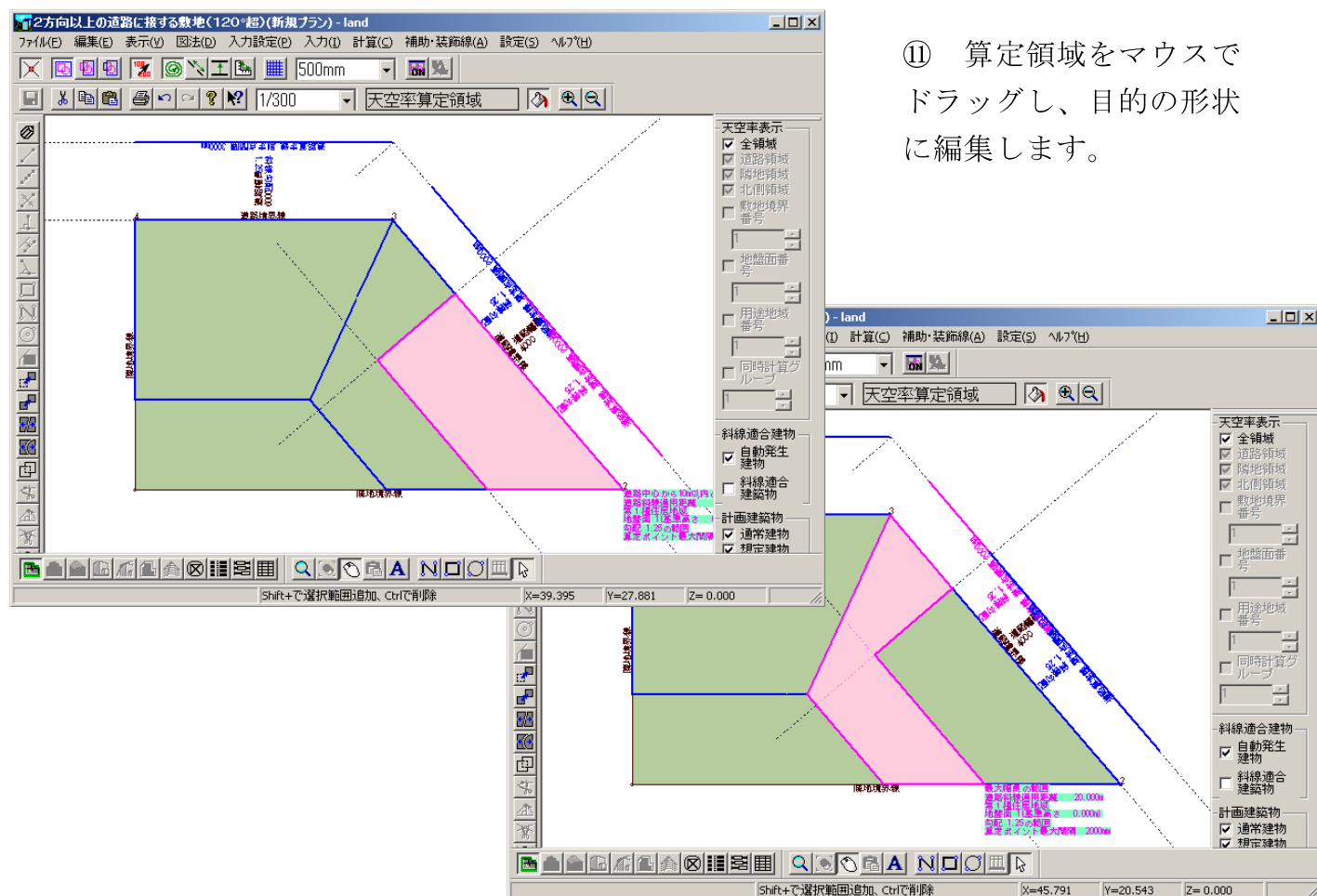
⑨ 道路中心から10mの線も引いておきましょう。



- ⑩『補助・装飾線』モードを終了し、『交点吸い付き』ボタンなどを利用し算定領域をマウスでドラッグして修正します。不必要な領域やポイントは適宜削除します。
- その際、『交点吸い付きモード』、『従属変更モード』を押して作業をします。

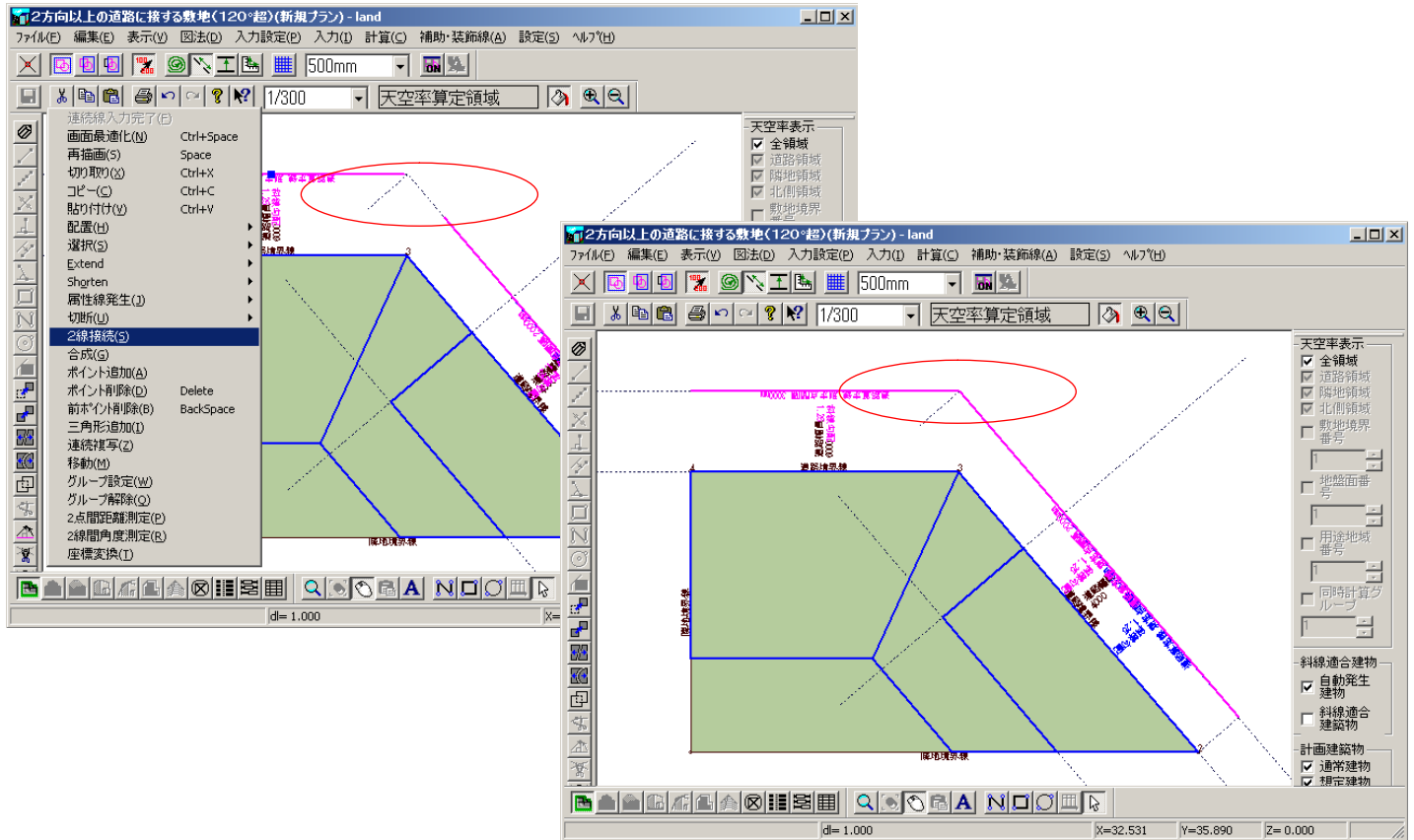


- ⑪ 算定領域をマウスでドラッグし、目的の形状に編集します。

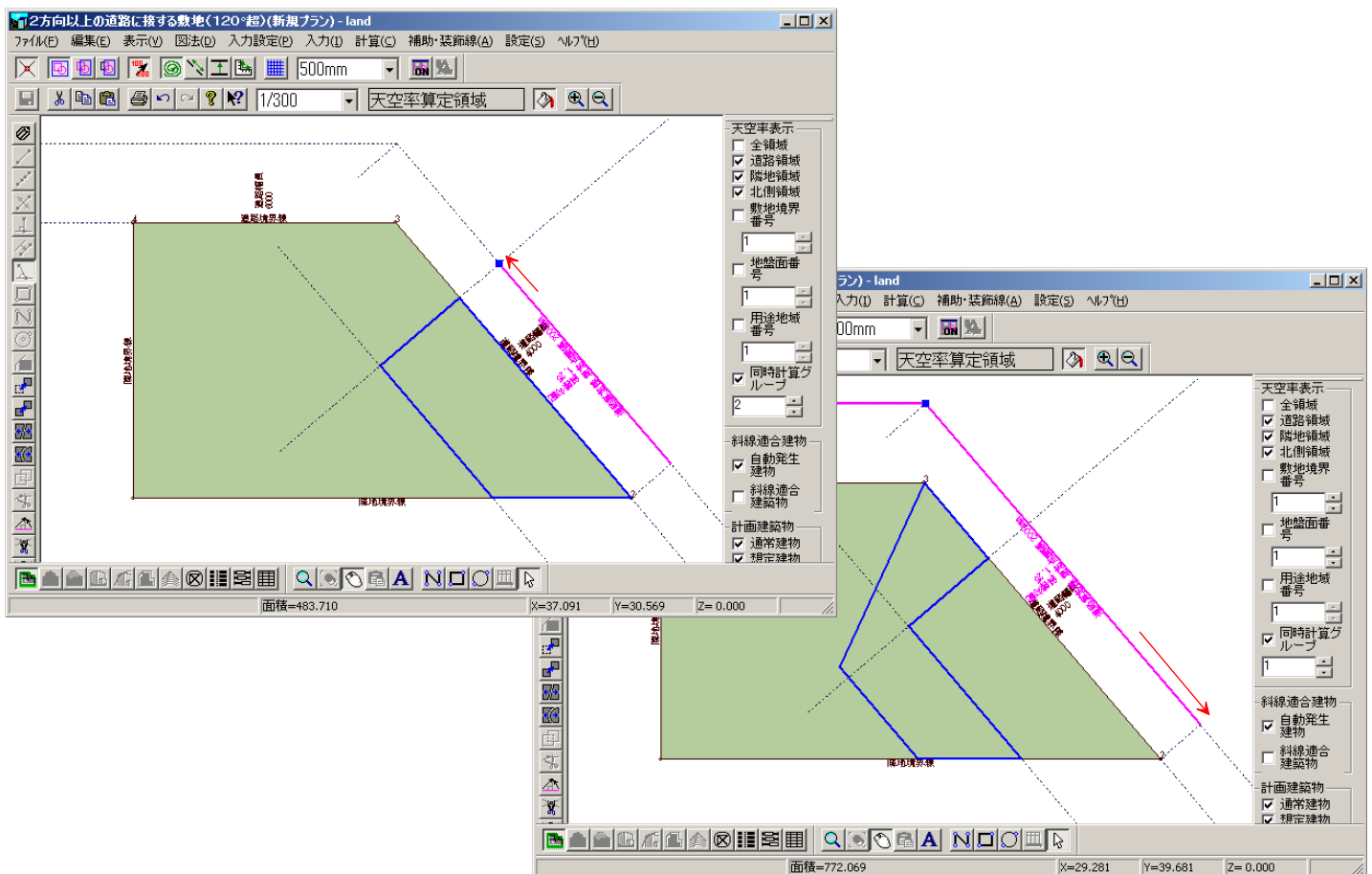


## ⑫ 算定線を修正します。

連続する算定線は、「Shift」＋マウス左ボタンで複数選択し、右ボタンメニューから『2線接続』で接続できます。

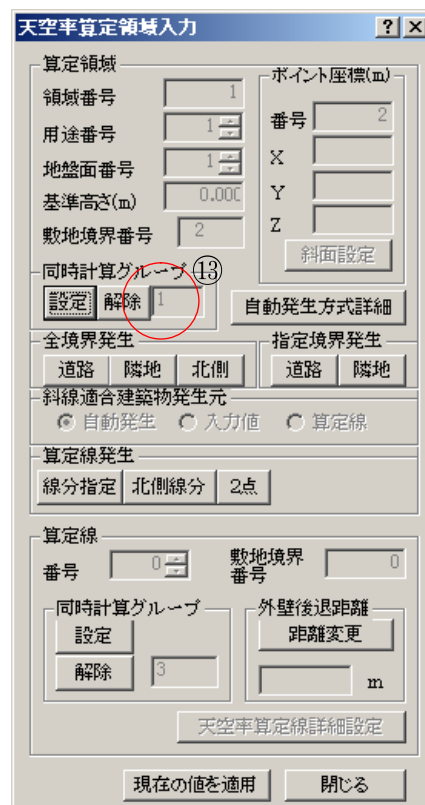
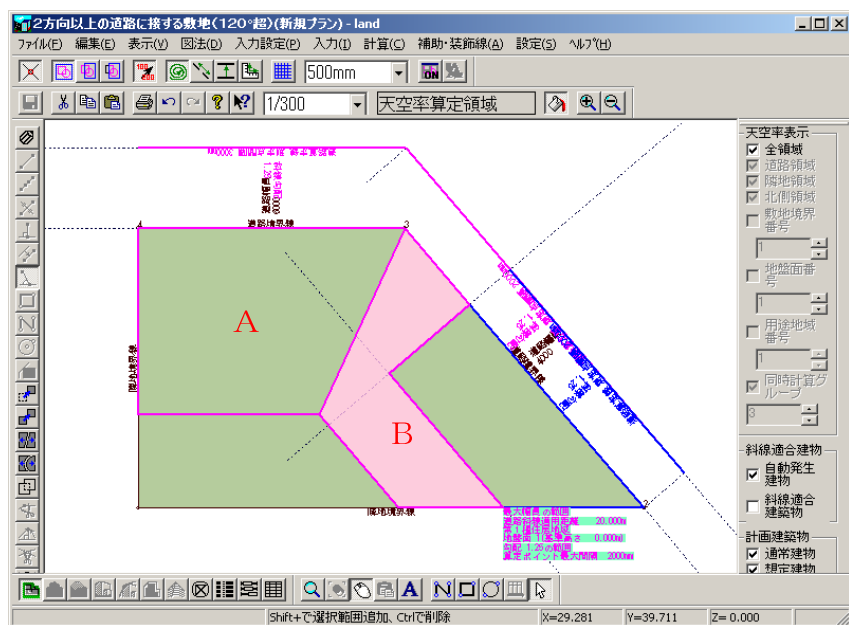


## ⑬ 『交点吸い付き』ボタンなどを利用し、目的の位置までマウス左ボタンでドラッグ修正します。





- ⑭ 『同一境界線設定』がされている場合、発生した算定領域は自動的に同時計算グループに設定されます。



- ⑭ 『計算モード』へ移り、『天空率』を計算します。  
計算の結果を下図に示します。

